⑵　外国為替資金特別会計（別表３参照）

外国為替資金の収支は、24億円の受取超過であって、前年同期（1,341億円の受取超過）に比べ、1,317億円受取超過額が減少した。収入は、前年同期（1,341億円）に比べ、306億円減少して1,036億円となった。一方、支出は、前年同期（１億円）に比べ、1,012億円増加して1,012億円となった。

⑶　その他の特別会計等

その他の特別会計等の収支のうち、主な項目についてみると次のとおりである。

社会資本整備事業の収支は、収入1,255億円、支出5,997億円、差引き4,742億円の支払超過であって、前年同期（7,596億円の支払超過）に比べ、2,853億円支払超過額が減少した。

保険の収支は、収入９兆3,189億円、支出16兆7,200億円、差引き７兆4,011億円の支払超過であって、前年同期（７兆6,169億円の支払超過）に比べ、2,158億円支払超過額が減少した。

３　国債等・国庫短期証券等

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成22年度第３・四半期 発行(借入)	償還	差引き	前年同期 発行(借入)	償還	差引き
国債等	305,349	138,164	167,185	292,756	201,334	91,423
国債(１年超)	304,797	137,831	166,966	292,180	200,977	91,203
借入金	552	333	219	576	356	220
国庫短期証券等	998,999	957,763	41,236	1,062,825	982,405	80,420
国庫短期証券	878,999	837,763	41,236	948,825	868,405	80,420
一時借入金	120,000	120,000	△ 0	114,000	114,000	△ 0

国債等及び国庫短期証券等の発行（借入）・償還状況は、上表のとおりである。

国債等の収支は、16兆7,185億円の受取超過であって、前年同期（９兆1,423億円の受取超過）に比べ、７兆5,762億円受取超過額が増加した。国債（１年超）の収支は、発行30兆4,797億円、償還13兆7,831億円、差引き16兆6,966億円の受取超過であった。借入金の収支は、借入552億円、償還333億円、差引き219億円の受取超過であった。

国庫短期証券等の収支は、４兆1,236億円の受取超過であって、前年同期（８兆420億円の受取超過）に比べ、３兆9,184億円受取超過額が減少した。国庫短期証券の収支は、発行87兆8,999億円、償還83兆7,763億円、差引き４兆1,236億円の受取超過であった。一時借入金の収支は、借入12兆円、償還12兆円、差引き０億円の支払超過であった。

（参考）　実質収支

上で述べた財政資金対民間収支は、各会計等と民間との間における収入支出（窓口収支）のみをとらえたものであるが、各会計等の収支の実態をみるため、これに各会計等相互間の収支（国庫内振替収支）を加えた実質収支を示すと、次のとおりである。

△印は支払超過（単位　億円）

区分	窓口収支 (A)	国庫内振替収支 (B)	計（実質収支） (A)＋(B)
一般会計	△ 23,865	△ 81,297	△ 105,162
特別会計等	△ 78,200	77,688	△ 511
財政投融資	13,757	△ 68,035	△ 54,278
社会資本整備事業	△ 4,742	1,401	△ 3,342
外国為替資金	24	△ 533	△ 509
保険	△ 74,011	74,706	695
その他	△ 13,227	70,150	56,923
小計	△ 102,064	△ 3,609	△ 105,673
国債等	167,185	△ 9,660	157,525
国債（１年超）	166,966	△ 9,383	157,583
借入金	219	△ 277	△ 58
国庫短期証券等	41,236	13,269	54,505
国庫短期証券	41,236	4,202	45,438
一時借入金	△ 0	9,067	9,067
合計	106,356	—	106,356
調整項目	67	—	67
総計	106,423	—	106,423

第２　国庫対日銀収支（別表４及び別表６参照）

△印は支払超過（単位　億円）

区分	平成22年度第３・四半期	前年同期
国庫短期証券の発行・償還(△)	△ 59,563	△ 9,599
特別会計の債券売・買（△）	7,237	35,476
財政投融資	70,330	34,110
国債整理基金	△ 63,093	1,366
その他	△ 46,709	△ 63,695
計	△ 99,035	△ 37,818

期中における国庫対日銀収支（＊５）は、上表のとおり、９兆9,035億円の支払超過であって、前年同期（３兆7,818億円の支払超過）に比べ、６兆1,217億円支払超過額が増加した。

その内容についてみると次のとおりである。

１　国庫短期証券の発行・償還

国庫短期証券の発行・償還による日本銀行との間の資金調達・資金返済状況をみると、資金調達４兆9,989億円、資金返済10兆9,552億円、差引き５兆9,563億円の支払超過であって、前年同期（9,599億円の支払超過）に比べ、４兆9,964億円支払超過額が増加した。

２　特別会計の債券売・買

特別会計と日本銀行との間の債券売買の状況をみると、7,237億円の受取超過であって、前年同期（３兆5,476億円の受取超過）に比べ、２兆8,239億円受取超過額が減少した。財政投融資は、７兆330億円の受取超過であって、前年同期（３兆4,110億円の受取超過）に比べ、３兆6,220億円受取超過額が増加した。国債整理基金は、前年同期の1,366億円の受取超過から、６兆3,093億円の支払超過となった。

３　その他

国庫と日本銀行との間の経常収支は、４兆6,709億円の支払超過であって、前年同期（６兆3,695億円の支払超過）に比べ、１兆6,986億円支払超過額が減少した。

第３　政府預金（別表５及び別表６参照）

財政資金対民間収支（10兆6,423億円の受取超過）から政府預金（＊６）の増減に関係のない調整項目（67億円の受取超過）を除いた収支は、10兆6,356億円の受取超過であった。また、国庫対日銀収支は、９兆9,035億円の支払超過であった。その結果、政府預金の期末残高は、前期末（１兆1,916億円）に比べ、7,321億円増加して１兆9,237億円となった。